

# 特別活動 (小学校)

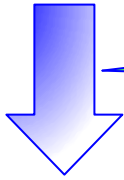
## 特別活動と道徳との関連はどうなっているのか。

### 1 特別活動と道徳教育

#### 【特別活動の目標】

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う。

特別活動の目標には、心身の調和のとれた発達と個性の伸長、自主的、実践的な態度、自己の生き方についての考え、自己を生かす能力など道徳教育がねらいとする内容と共通している面が多く含まれており、道徳教育との結び付きは極めて深い。とりわけ、特別活動における学級や学校生活における望ましい集団活動や体験的な活動は、日常生活における道徳実践の指導をする重要な機会と場である。



具体的には

例えば、自分勝手な行動をとらずに節度ある生活をしようとする態度、自己の役割や責任を果たして生活しようとする態度、よりよい人間関係を築こうとする態度、みんなのために進んで働こうとする態度、自分たちで約束をつくって守ろうとする態度、目標をもって諸問題を解決しようとする態度、自己のよさや可能性に自信をもち集団活動を行おうとする態度などは、集団活動を通して身に付けたい道徳性である。  
また、児童の悩み、学級や学校生活における葛藤などの道徳性に関する問題は、学級活動における指導と深いかわりがある。

特に、学級活動の内容に示した  
〔第1学年及び第2学年〕の「仲良く助け合い学級生活を楽しくする」  
〔第3学年及び第4学年〕の「協力し合って楽しい学級生活をつくる」  
〔第5学年及び第6学年〕の「信頼し支え合って楽しく豊かな学級や学校の生活をつくる」  
は、第3章道徳の第2に示す「2 主として他の人とのかわりに関すること」や、「4 主として集団や社会とのかわりに関すること」の内容項目を踏まえたものである。(66 ページ参照)

学級活動だけでなく、児童会活動、クラブ活動、学校行事にも深いかわりがあるので、学習指導要領解説を熟読して理解しておく必要がある。

## 2 特別活動と道徳の時間

特に、今回の学習指導要領の改訂によって、特別活動の目標に、道徳の時間の目標と共通に、「自己の生き方についての考えを深め」を示したことを踏まえ、それぞれの指導法などの違いを十分に理解した上で、道徳の時間との関連を図って日常生活における道徳的実践の指導の充実を図る必要がある。

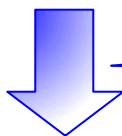
特別活動は、道徳の時間に育成した道徳的実践力について、よりよい学級や学校の生活や人間関係を築こうとする実践的な活動の中で実際に言動に表すとともに、集団の一員としてのよりよい生き方についての考えを深めたり、身に付けたりする場や機会でもある。

そして、児童が特別活動における様々な活動において経験した道徳的行為や道徳的な実践について、道徳の時間にそれらについて取り上げ、学級の児童全体でその道徳的意義について考えられるようにし、道徳的価値として自覚できるようにしていくこともできる。

さらに、道徳の時間での指導が特別活動における具体的な活動場面の中に生かされ、具体的な実践や体験などが行われることによって、道徳的実践力と道徳的実践との有機的な関連を図る指導が効果的に行われることにもなる。

特別活動における「自己の生き方について考えを深める」とは、実際に児童が実践活動や体験的な活動を通し、現在及び将来にわたって希望や目標をもって生きることについてや、他者と共生しながら生きていくことなどについての考えを深め、集団の一員としての望ましい認識をもてるようにすることであり、読み物資料などを通して自己の生き方についての考えを深める道徳の時間とは区別して指導する必要がある。

特別活動と道徳の時間との安易な関連付けは、逆に双方の学習効果を低めることになりかねない。両者の特質をしっかりと理解した上で、それぞれの特質を生かして関連付けることが必要である。



具体的には

例えば、集団宿泊活動において、実際に寝食を共にする体験やよりよい生活を築くための話し合い活動を繰り返し行った際に、他者と共生しながら生きていくことなどについての考えを深め、「楽しく生活するためには、誰とでも仲良くし、協力することが大切だ」とか、「集団としての意見をまとめるためには、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にすることが必要だ」といった望ましい認識がもてるようにするとともに、このような認識に基づいて実際に行動や態度に表すことができるように指導することなどが考えられる。

これらは、特別活動において道徳性の育成にかかわる実践的な活動や体験的な活動を積極的に取り入れ、活動そのものを充実させることによって道徳性の育成を図ろうとするものである。そして、このような体験活動における道徳的価値の大切さを自覚し、自己の生き方について考えを深めるといった視点から実践的な活動や体験的な活動を考えることができるように道徳の時間を工夫し、連携を図っていく必要がある。